

科目名			作業関連疾患予防学実習		
科目責任者		大神 明	(作業関連疾患予防学 教授)		
担当者		池上 和範	(作業関連疾患予防学 准教授)		
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位	時間数:	90分× 60 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>職域における産業保健の課題として、特に先進諸国においては従来の職業性疾病に代わり重要な対策対象となっている作業関連疾患の範囲、就業との関連、発症および進展予防に資する対策について理解し、現場での対策、教育の方法を習得する。受講者は個々の範疇に属する疾患については基礎知識を有することを前提して、事業においては対策実施の企業活動上の意義、効果についてのエビデンスを提示し、適宜ケースメソッド教授法による討論を組み入れ、また演習ではグループワークによる課題への対策案の作成を通じて、実践力を身につけることを図る。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作業関連疾患予防学概念とこれまでの展開について系統的に考察することができる。 2) 作業関連疾患予防学の現代における発展と課題について系統的に考察することができる。 3) 作業関連疾患の背景における諸問題を系統的に考察することができる。 4) 作業関連疾患の背景における諸問題を分析することができる。 5) 作業関連疾患予防に必要な疫学的・統計学的調査方法を系統的に考察することができる。 6) 作業関連疾患の各疾患において基礎理論の応用を系統的に考察することができる。 7) 作業関連疾患予防の概念を各疾患予防に応用し系統的に考察することができる。 8) 疫学の考え方・調査方法を作業関連疾患各論に応用し系統的に考察することができる。 9) 産業保健医療情報の特徴について系統的に考察することができる。 10) 国内外の作業関連疾患予防研究の特徴について系統的に考察することができる。 11) 作業関連疾患予防学概念を基礎とした就業措置について系統的に考察することができる。 12) 企業等のフィールド調査研究の要点について系統的に考察することができる。 13) 日本の作業関連疾患予防政策・制度について系統的に考察することができる。 14) 作業関連疾患予防政策・制度の国際比較について系統的に考察することができる。 15) 企業の社会的責任としての作業関連疾患予防について系統的に考察することができる。 					
● 評価方法		プレゼンテーション40%、討論参加30%、レポート30%等で総合評価する。			
● 参考文献		実習の中で必要に応じ紹介する。			

● 授業内容

内容	担当教員
選択した実習テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な実習を行う。	大神
呼吸器系作業関連疾患領域を中心に、じん肺読影・呼吸機能判定に関する研究指導を行う。	大神
循環器系作業関連疾患領域を中心に、基礎実験及び動脈硬化解析法に関する研究指導を行う。	大神
医療情報(健診情報)の解析及び研究指導を行う。	池上
学会発表を通して、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	池上